

任職の佛教史

鎌倉の佛教

浄土宗(一)

この時代は前九年後三年の役 平治の乱が相次いで起り 東大寺 興福寺も焼かれ 又全国的に飢饉が発生 現実社会への絶望と厭世感が起っていた。 法然上人が 浄土思想を広めたのはまさにこのような 時代が背景にあった。

法然は(一三三三)九歳で父を失ひ比叡山にのぼった 十八歳で黒谷別所に移り 融通念佛の祖 良忍の弟子 寂空に師事し 唐の善導大師が著した「観無量寿経疏」に触れ 阿弥陀佛の救いを悟り、極楽浄土に往生し救われるとする 浄土の教義を体系確立した。この時四十三歳 源空から法然と号した。

浄土教団はこの時を開宗の年とした 法然は比叡山をおり 京都東山の草頂山麓に吉木の草庵を結び(知恩院のある地)念佛の教えを説きはじめた。

今回は法然の教義(浄土宗の教義)について 又この教えが世に広まった結果 旧佛教教団から排斥を受け、事になった事について述べる。

任職 仁阿

鎌倉佛教 浄土宗 (1)

この時代は、前九年後三年の役、平治の乱が相次いで起こり、東大寺、興福寺も焼かれ、また、全国的に飢餓が発生。現実社会への絶望と厭世感が起きていた。法然上人が、浄土思想を広めたのは、まさにこのような時代が背景にあった。

法然は、(一一三三〜一二一二) 九歳で父を失い、比叡山にのぼった。十八歳で黒谷別所に移り、融通念仏の祖、良忍の弟子、叡空に師事し、唐の善導大師が著した「観無量寿経疏」に触れ、阿弥陀佛の救いを悟り、「極楽浄土に往生し救われる」とする浄土の教義を体系確立した。この時、四十八歳、源空から法然と号した。浄土教団は、この時を開宗の年とした。法然は比叡山をおり、京都東山の華頂山麓に吉水の草案を結び(知恩院のある地)念佛の教えを説き始めた。

次回は法然の教義(浄土宗の教義)について、又、この教えが世に広まった結果、旧仏教教団から排斥を受けることになったことについて述べます。

続きは来月に

住職 仁阿